

今日のみことば

□ 12月25日(日) ルカ 17章

パリサイ人は、神の国がすでに到来していることを知らず、神の国はいつ来るかと尋ねた。神の国はこの世の王国とは異なる。人々の内に行われる神の聖霊の働き始まる。

□ 12月26日(月) ルカ 18章

不正な裁判官のたとえを通して聞くことは何か。女がこのような争いのために懇願するのだとすれば、私たちはすぐに答えは得られなくても、祈りにつけるべきだと教えられる。

□ 12月27日(火) ルカ 19章

イエスは軍馬ではなく、ロバに乗って入場された。かれは、平和の使節として来られたのである。しかしエルサレムは平和ではなく暴力を望み、ついにローマ軍によって破壊される。

□ 12月28日(水) ルカ 20章

祭司、律法学者はイエスを陥れようと問者を送って質問をした。主はこの世を王権を認め、さらにあらゆる権威を超えた神の権威とご支配について語られた。私たちの忠誠はまず神に。

□ 12月29日(木) ルカ 21章

自分の生活に何ら響かない献金の仕方は、それがどんなに多額でも神の目には無である。有り金全部を捧げたやもめを、主は賞賛された

□ 12月30日(金) ルカ 22章

キリストの死を記念すべき最後の晩餐の席で、弟子たちはだれが一番かと論じ合っていた。彼らはこの時においてもこの世における地位を求めていたと言うのである。

□ 12月31日(土) ルカ 23章

イエスが十字架にかかって死なれたとき、聖所と至聖所を隔てた幕が上から下まで真っ二つに裂けた。今やすべての人々はキリストを通して神に近づくことが出来る。

ろ ぼ No. 1795
2016年 12月25日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

イザヤ 53:2

乾いた地に埋もれた根から
生え出た若枝のように／こ
の人は主の前に育った。見
るべき面影はなく／輝かし
い風格も、好ましい容姿も
ない。

クリスマス、イエスの誕生の出来事は、人類歴史の中で大きな分岐点となっていることはご存じです。暦がイエスの誕生を起点としてBCとADに分かれる大きな出来事もさることながら、神の愛の大きさをしっかりと体感させていただく日々を過ごさせていただいているのです。

この日に何が起こったのですか
ベツレヘムの馬小屋で一人の赤子が誕生しました。この子の誕生を天の使いは「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである」と告げました。クリスマスはその誕生会です。23日は祝日・天皇誕生日でした。例年になく多くの方が祝いに皇居を訪れたと聞きました。クリスマスは少し様子が違います。と言うのは多

くの人たちは、特に日本のクリスマスを祝っている人たちの多くは、キリスト誕生の喜びの祝いとは考えていません。私たちクリスチャンがしっかり心せねばならないことです。

世界中の人たちがキリスト・イエスの誕生を祝うのには、明確な訳があります。天の使いが「あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである」と告げた言葉にあります。二千年昔のイスラエルの人たちだけではありません。今日に生きる私たちも、救世主の来臨を求めています。今世界に何が起きているかを私たちはしっかりと承知しています

だれがそれをまとめて、この地に平安をもたらしてくれるのでしょうか。どこにもそのような人物を見いだすことは出来ません。今世界でリーダーシップをとっているかに見える人物たちで、自分の利益を求めている人は、一人としていません。言葉とは裏腹に自分の安寧を求めているのであって、世界の安寧を求めている者はいないのです。

キリストは「自分を捨て、自分の十字架を負い、そして私に従いなさい」と言われた。クリスマスの主人公は、このことの実現のために来られたのです。今でこそキリストは注目の人物ですし、世界中でクリスマスが祝われていますが、それは本来の目的ではありませんでした。この造られた世界が、本来の機能を取り戻すための出来事でした。ベツレヘムの馬小屋で誕生され、徹底して仕えて生涯を過ごされ、十字架にまでつかれたイエスに、私たちは何を聞くのですか。神が求めておられるのは、あの造られたはじめの世界です。造られたものがお互いをしっかり認め合い、愛し合って生きる世界ではなかったのでしょうか。そしてそれは実現される世界です。イエスがそれを具現化して下さいました。神を愛し、人を愛することです。憎しみ合い、いがみ合うような世界は、神が造られた世界ではありません。神はそれをキリストにあって実現されようとされました。人々がクリスマスを祝い、そこに安らぎを得られるのは喜びですが、真の平安を確かなものとしてほしいのです。それは神を知り、その御心に従うことがなければ、それはかないません。神を信じて下さい。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
マタイ 6:5-13 絶えず祈れ

新しい年を迎える中で、愛するテサロニケの教会の人たちにパウロが願った「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」との言葉をしっかりと心にとどめさせていただきます。その中で私たちは、今日の時代を思うとき、何が私たちに足りないかを知らされます。

もっと神を信じて祈ることです。クロスビーは「恐れなく近寄れと／主は語りたもう。信仰の手伸ばしつつ／近づきまつらん。いよいよなが側に／われを引き寄せ／いよいよ主よなが愛の／広さ知らしめよ」と歌いました。

しっかり主とともに歩むことは力の源です。悪しき勢力・サタンはなんとかして私たちの働きを妨害しようと躍起です。その働きに一撃を加えることが出来るものは祈りです。宣教の働きを実らせる秘訣は祈りです。恐れなく主に近づいて、その力を引き出さねばなりません。



Read God's Word.